

かみ あ そう はつ でん しょ しゅ すい えん てい

上麻生発電所取水堰堤

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：岐阜県加茂郡白川町 竣工年：1926（大正15）年
管理者：中部電力（株）

認定理由：大正末期以降の濃尾の電力需要に対応して建設された、
日本現存最古のローリングゲートの美しい発電用取水堰堤。

平成30年度登録



上麻生発電所取水堰堤を下流左岸側からみる。左側のドラムが少し掲げられて放水中。機械室の意匠も控えめながら美しくデザインされている。



▲ 金属の綱が機械室で巻き上げられると、ピアに斜めに設けられたガイドに沿って、綱ドラムが回転しながら上がる。



▲ 中央の機械室内部。大きな歯車は恐らく建設当初のもの。



▲ 下流側から見る。向かって左に送水路、右に流木路が見える。サイトは飛水峽と呼ばれ、険しく切立つ岩盤とエメラルドの淵の絶景を誇る名所。

第一次世界大戦後の日本の電力需要は増大し、水力発電建設が盛んになっていた。飛騨川の電源開発をはじめたのは、岐阜電力という企業である。岐阜電力は、東邦電力系の会社であり、大正14（1925）年に七宗発電所を完成させ、続けて上麻生発電所を手掛けた。大正15（1926）年10月、岐阜電力は東邦電力に吸収され、翌月上麻生発電所は竣工した。その後東邦電力は、金山発電所（造ったのは第二岐阜電力）を加えて、3つの発電所により供給力を拡大させた。

上麻生発電所取水堰堤は、鋼ドラムのローリング・ゲートに特徴がある。同年に竣工した石川県の吉野谷も同じ形式だったが、現存するローリング・ゲートの堰堤としては、これが日本最古のものとなる。長野に南向発電所（昭和4、選奨土木遺産）とあわせて、国内に数例しかない希少な形式である。左岸側の流木路は、丸太を川に流して輸送した当時には重要な施設であり、傾斜が次第に緩和されて滑らかに着水するように設計される。右岸側の水路が発電所への送水路であるが、流水方向から折り返すようにしてステップ&プールの工夫された魚道が設けられている。



▲ 堰堤上から下流右岸側を見る。送水路に魚道が附けられている。

